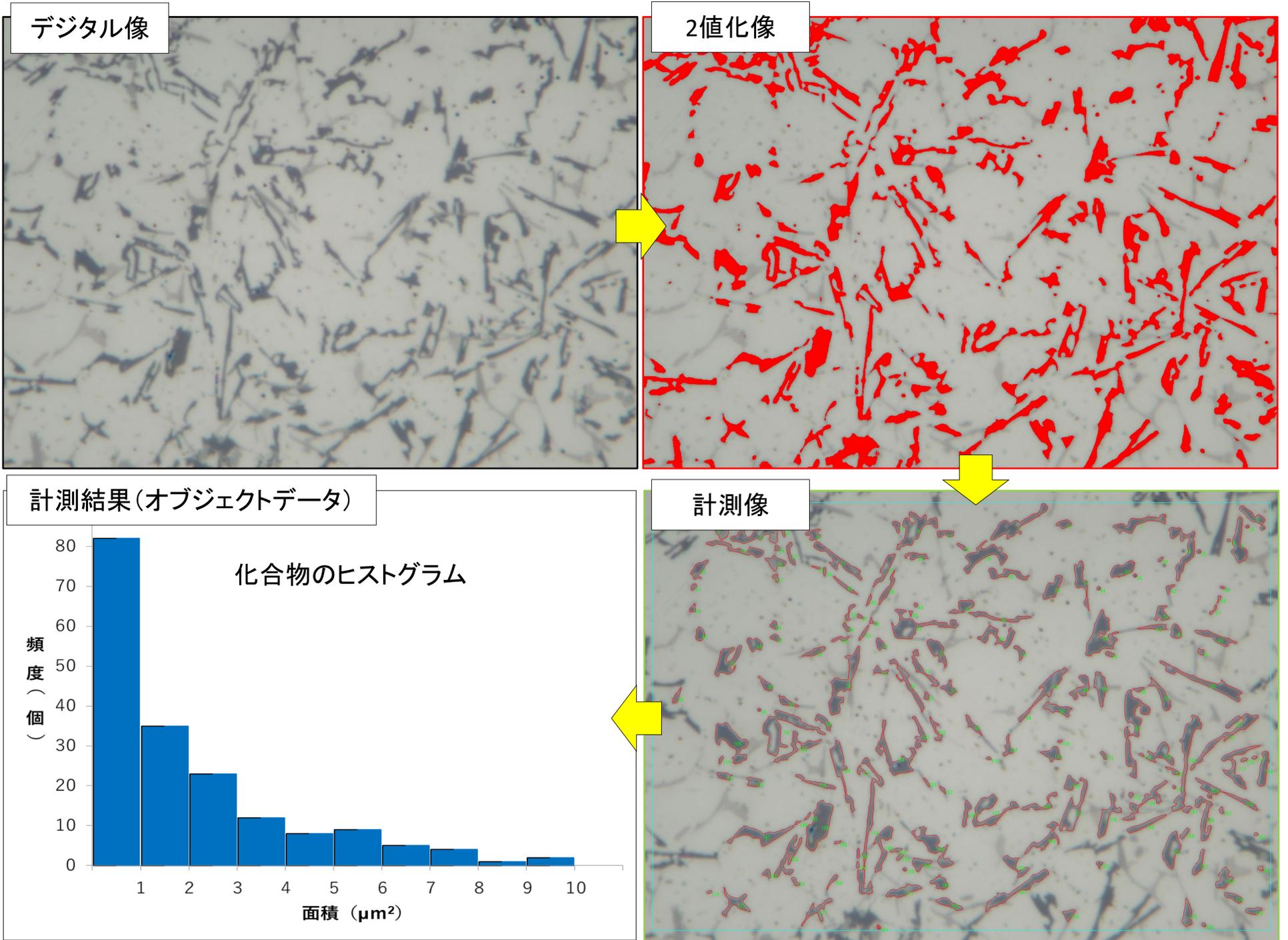


画像解析

顕微鏡像やマッピングデータ等を定量的に解析する場合、画像解析法が有効です。ここではアルミダイカスト(ADC12)に存在する介在物の定量解析事例を紹介します。

アルミダイカスト(ADC12)に存在する介在物は、その物性に有害な影響を与えます。そのため、介在物の大きさ・量や分布を把握することが重要です。本解析では顕微鏡像(デジタル像)から介在物を抽出・計測を行い、様々な定量指標を抽出しました。



* : 赤縁取りされた粒子が計測対象粒子

計測結果(フィールドデータ)

総面積	2933.5312 μm^2	粒子数	181個	単位面積当りの個数	0.0617個/ μm^2
抽出面積	352.7444 μm^2	抽出面積率	12.02%	画像幅	66.6 μm
非抽出面積	2580.7868 μm^2	非抽出面積率	87.98%	画像高さ	47.4 μm
平均粒径(最大径)	2.7038 μm	平均円相当径	1.3572 μm		

連絡先: 機器分析評価センター

(HP) <https://www.iac.ynu.ac.jp/>

(電話) 045-339-4406 (E-mail) iac@ynu.ac.jp

